

生活保護世帯諦めかけた高校進学

無料塾の生徒全員合格

生活保護受給世帯の子どもを対象にした無料の学習塾で学んだ生徒27人全員が志望高校に合格し、入学に期待を膨らませている。塾は、経済的理由などから進学を諦める割合が多い保護世帯の子どもに自信をつけさせ、就労にもつなげようと昨年、嘉手納町と那覇市で始まったばかり。早々に成果を挙げた。「貧困の連鎖」を断とうと、本年度は2市2町でも取り組みが始まる。(新崎哲史)



講師から一対一の学習指導を受ける子どもたち
—嘉手納町嘉手納

嘉手納・那覇27人 自信覚えつつ

中部福祉保健所と那覇市は、厚生労働省の全額補助×ニュー「子ども健全育成支援事業」を活用。学習支援に取り組みNPO法人エンカレッジにそれぞれ塾運営を委託した。

受験生9人が近隣の高校に合格した。嘉手納町の女子生徒(15)は中学2年の時、授業についていけず、半ば高校進学を諦めていた。「授業中に『分からない』と言っているから、塾にも苦労しているから、塾に通いたいのと言えない。勉強が分からないまま取り残された」と振り返る。

無料の塾があると聞き、すぐに入塾を決意。普段は週に3回、1日2時間の学習をこなし、試験前は毎日通って問題文と向き合った。勉強のこつを覚えると、テストの点数がみるみる上がり、社会で97点を取った時は「天才になった」と、自信にあふれた。

高校は第1志望に合格。「塾に通わなければ合格できなかったと思う。介護職に就きたいので大学進学を目指す」と声を弾ませた。

新たに4市町導入へ

県福祉・援護課によると、2011年の高校進学率は全県平均が95・8%だったのに対し、生活保護世帯の生徒は84%にとどまった。

また、中途退学を防止しようと、那覇市などは専門支援員を雇用。希望していない高校への進学や生活改善ができずに中退する例も多いため、支援員が本人や保護者と面談を重ね、高校進学の動機づけや生活改善をサポートしている。

経済的理由などによる進学断念や中途退学は、子どもの就労の幅を狭め、最終的に低賃金の職場で働かざるを得ない「貧困の連鎖」に陥りやすいことから、問題視されている。

児童福祉に詳しい沖縄大学の山内優子非常勤講師は「学習支援は待ち望んだ取り組みであり、全県に広げてほしい。一方で、保護世帯以外の低所得者層への支援や、高校にとどまらず大学卒業までを見越した支援も必要だ」と指摘している。

昨年始まった塾の学習支援では、宜野湾市も1月から通塾費用の補助を始めた。本年度は糸満市、豊見城市、西原町、南風原町で同様の塾が開校する予定。

脱「貧困の連鎖」へ一歩

児童福祉に詳しい沖縄大学の山内優子非常勤講師は「学習支援は待ち望んだ取り組みであり、全県に広げてほしい。一方で、保護世帯以外の低所得者層への支援や、高校にとどまらず大学卒業までを見越した支援も必要だ」と指摘している。

つよくなれば、進学や就労など人生の歩みに大きな力となる」と語る。嘉手納、那覇両教室のうち22人は1次試験で合格。5人は2次募集で合格した。